



政策・プログラム評価研究室

Policy and Program Evaluation Laboratory

Keywords: 社会科学のデータサイエンス、統計的因果推論、実証ミクロ経済学



牛島 光一

Koichi Ushijima

研究室の理念

この研究室では、政策や開発プログラムの実効性を、理論的整合性と実証的厳密さの両面から検証することで、公共政策の設計と実施に「**再現性のある根拠**」と「**説明責任に基づく信頼性**」をもたらすことを目標としています。

また近年は、衛星画像などのオルタナティブデータから社会経済情報を抽出し、地球規模のパネルデータセット（**E**arth **C**hronological **A**rchive）の構築に挑戦しています。このデータセットが完成すれば、社会科学がこれまでに検証できなかった地球規模課題の分析を可能にする新たな基盤となると考えています。

研究テーマ

博士課程における研究テーマは、基本的には私の専門分野である、開発経済学や人的資本論に関連する内容を選択してもらいます。場合によっては、地域科学などの近隣分野をテーマとすることも可能です。いずれの場合においても、学術的・政策的に高い価値が見込まれる内容であることを求めます。

教員の研究テーマ例

衛星画像を活用した政策評価：

- ・地球規模社会経済パネルデータの構築
- ・政治的優遇と道路建設
- ・道路建設の経済効果と環境破壊

人的資本論・開発経済学・環境経済学：

- ・途上国の人々の健康リスク対策
- ・母親の教育水準と子供の健康
- ・自然災害による就業機会減少と大学進学
- ・自動車排出ガス規制の経済・健康への影響など



Earth Chronological Archive イメージ
画像生成：Sora(OpenAI)

博士課程進学希望者へのメッセージ：

社会科学の研究は、常に「**問いを立てる力**」と「**意味を読み解く力**」に支えられてきました。真に評価される研究は、この二つの観点で高い水準にあり、さらに**人々の意思決定を後押しする力強さ**を備えています。

近年、AIの進化によって、分析の一部は自動化されつつありますが、そのすべてが機械に代替されるわけではありません。むしろ、AIが大量の情報を瞬時に処理できるようになった今、私たちには、データの背後にある構造を読み解き、どのような問いを社会に提示するかという創造的な判断力が求められています。

この変化の時代に、深く考え、社会的に価値のある問いを探求できる能力を高めることは、これまで以上に重要です。世界的に評価される研究を目指し、AI時代においても人間の知の可能性を切り拓くために、博士課程へ進学するという選択肢を検討してみてください。